

2018 3/13

No.2062

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



バレーボールのやまゆり杯・小田急旗争奪第42回県家庭婦人大会（神奈川新聞社など主催）県決勝大会は4日、藤沢市の秋葉台文化体育館で行われ、大和地区の鶴間台が初優勝を果たした。



contents

視点・点描	3
動き出すか？川崎縦貫道	

講演録	4
第4次産業革命に立ち向かうデジタル変革と エコシステムが生み出す企業競争力	
フィリップス・ジャパン代表取締役社長 堤 浩幸	

政治	8
自民総裁選、党大会が天王山 改憲案採択なら「安倍3選」	

経済	10
紙上座談会「仮装通貨の実像」 ゲーム感覚で投機拡大 若者参加、一獲千金狙う	

企業最前線	14
エアレスタイヤ実用化に注力 EV時代見据え開発促進	

くらし2018	16
オンライン診療のルールづくり	

広告珍談	18
広告はたのしい⑤⑨ フネの広告塔	

NNAアジア経済レポート	19
--------------	----

事務局だより

◇2018年4月定例講演会
2018年4月11日(水)

午後1時30分～3時

ホテルモントレ横浜3階「ビ
クトリア」

講師は城南信用金庫元理事
長・顧問の吉原毅さん

演題は「原発ゼロで日本経済
は再生する」

視点 点描



動き出すか？川崎縦貫道

川崎市域を縦断し東京湾アクアラインと東名高速を結ぶ高速道路

「川崎縦貫道路」について、川崎商工会議所の山田長満会頭は2月、国土交通省を訪れ、大師ジャンクション（JCT）を起点に東京外かく環状道路（外環道）と一本化して早期整備するよう要望した。長らく進展が見られなかった縦貫道の計画が動き出すのか、注

目される。

川崎は南北に細長いのが、これを縦断する幹線道路は少なく、渋滞で移動時間がかかる。かつて市北部から羽田空港へは、第三京浜の保土ヶ谷インターを通過して首都高で、という遠回りをする事とも。川崎港から東名への高速道等でのアクセスも都心や保土ヶ谷バイパス経由という状態だ。

このため市内経済界などが20年以上前から要望を続けているのが縦貫道建設だった。しかし、沿線住民からの反対や膨大な事業費などがネックとなり、事業中の1期区間（浮島～国道15号）でも7年半前に浮島～大師JCT間がつながっただけ。2期区間（国道15号～東名）に至っては調査中のままだ。

線が昨年3月開通。さらに20年の開通を目指して同インターと東名青葉インターを結ぶ北西線の工事が急ピッチで進み、東名と湾岸線を結ぶバイパスが完成する。外環道と縦貫道の二つを整備することは現時点では考えられない。「一本化して、あとはどの程度、川崎側にルートを近づけられるか」というのが経済界の思惑だろう。

そうした中で国土交通省と都、川崎市は2016年2月に外環道の計画検討審議会を設置。東名（世田谷区）と結ぶ外環道の湾岸線側の接続を東京側（昭和島JCT）か川崎側（大師JCT）にする事を議論。これを好機と、商議所は、初めて大師JCTを起点とするよう要望書に明記した。

多摩川をはさんで近接して構想された両路線。しかも、横浜側では、首都高の生麦JCTと第三京浜港北インターを結ぶ横浜環状北

ただ忘れてはいけないのが沿線住民だ。今後、エコカーがどのくらい普及するのか分からないが、多摩川に沿って地下を通すなど、環境に配慮するべきだ。北西線の構想段階で導入したパブリックインボルブメント（PI）という、市民に情報を提供しつつ意見を聴く手法も必要だろう。市民が納得できるよう進めていくことが大前提だ。

（神奈川新聞社川崎総局長

瀧村 誠）

フネの広告塔

「万里の長城」は中国。「エッフェル塔」はフランス。「ロンドン塔」はイギリス。「ピラミッド」はエジプト。「サグラダ・ファミリア」はスペイン。「エンパイヤステートビル」はニューヨーク。「東寺の五重塔」は京都。

長いか、背が高いか、それぞれ

国や町のシンボルである。いいかえれば、「広告塔」である。「パリの広告塔」は、そのものずばりだな。

横浜のマリンタワー、神戸のポートタワー。ミナトの広告塔である。自然がつくった富士山は、日本の広告塔である。フネで来日する人たちは富士山が見えたと感動した。現在も飛行機から眺めて、おお、ジャパンと！

フネの「広告塔」は、エントツである。図は1930年代、世界

で有名なフネのエントツと、船会社の社旗である。左端上から3番目が、QE2をもつ、イギリスのキユナード汽船。まっ赤に、黒いカムリをかぶったエントツ。ライオンを染め抜いた旗が、いかにも、7つの海に君臨する船会社らしい。

左端、下から3番目が日本郵船。飛鳥Ⅱのエントツには、赤い2本の線がとり巻いている。郵便汽船三菱と対抗してきた共同運輸会社が、1885（明治18）年に合併。その意味をもつて「二引^{にびき}」という。エントツに採用されたのは1929（昭和4）年、欧州航路に就航する諏訪丸が最初であった。右端のいちばん下は大阪商船。エントツにも旗にも、ひらたくなつた「大」の文字。大阪商船は

1884（明治17）年、群小する大阪の船主が結束して設立。「大」は日本最初の、ファンネルマークとして採用された。

1964（昭和39）年、大阪商船は三井船舶と合併。ファンネルマークはどうするか議論百出のすえ、無地がいい。オレンジ1色がよろしいと決まった。

この図版は昭和2年に出版された、学童図書《船の十日物語》か

ら引用した。どうして、そんな古い図版を掲載したのか。じつは、海にかこまれた日本なのに、なぜかフネへの関心がうすい。この本は小学生のころから、フネについて学ぶべきと刊行された、と思う。

《美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住》（図）世界の有名なフネのエントツと船会社の社旗。児島義人《船の十日物語》。イデア書院。1927（昭和2）年出版より

